

どっこい生きてます!



潮騒JTC

13周年フォーラム特集

協賛：はまなすクリニック

潮騒ジョブトレーニングセンターの最大行事「開設13周年フォーラム」が12月2日、鹿嶋勤労文化会館で盛大に開かれ、応援の力を借りながらも潮騒の持ち味やマンパワーを存分に発揮した、新たな方向性を感じさせました。とりわけ「地元の人達を呼び込んで会場を満員にしたい」という栗原豊センター長の熱い思いが実現し、また一つ地元へ地歩を固めることができました。

2018

12

地域と家族の繋がりを 体現できた 13周年フォーラム



師走に入り冬本番の寒さとなりました。皆様お変わりありませんか。さて今月号は見ての通り、潮騒ジョブトレーニングセンター13周年フォーラムの総特集となりました。フォーラムは施設最大の行事なので、スタッフを中心に全員参加型を目指して約1年近く掛けて準備しています。私達はイベント屋さん(そのノウハウは参考になりますが…)とは違って、フォーラムを自分達の回復と成長の場と考えています。でも、そこには自分達の力量が試されるという、よくある悲壮感や使命感はありません。「まずは自分達が主役として楽しもう」をモットーにして、いい意味での自己本位を優先させています。学術的な意味合いのフォーラムを期待される方には不満かもしれませんが、潮騒では会場と一体となって楽しめるフェスティバル(祭り)の要素にウエートを置いています。とはいえスタッフは仲間の回復を下支えする日常業務に忙しく、メンバーの入れ替わりもあります。それだけに毎年、マンネリ化しない企画内容のフォーラムを追求するのは大変です。そうした裏事情から、私は全力投球したフォーラムが終わる度に、心地よい達成感と満足感に浸ることができています。

今回のフォーラムで私は二つの課題、地域と家族を巻き込む形にできないか、をスタッフに提案しました。私達の基本は当事者活動ですが、社会と隔絶した閉鎖的な空間での回復はあり得ません。私達も皆さんと同じく地域の中で生きており、地元の鹿嶋・鹿行地域とともに回復があります。自分達の基本原則を曲げてまで、地域に対して媚びへつらう必要はありませんが、地域と共に歩む謙虚な姿勢がなければカルト集団のようになってしまいます。一方で、地域の皆さんは多くが依存症とは無縁な存在だけに、その距離感を埋める工夫や仕掛けが大事となります。そこで私は今回、潮騒の音楽プログラムをベースにして、私の好きな演歌を引き合いにプロの歌手の力を借りる作戦を促しました。結果的に大成功を収め、一時的にせよ鹿嶋勤労文化会館ホールがほぼ満席になりました。私が当初から願っていた「地域の人たちを呼び込みたい」「何とかして会場を満員にしたい」という熱い思いが現実となり、ひととき感動も大きかったです。

もう一つ、家族との連携ですが、登壇した男女スタッフのメッセージには苦労を掛け続けた家族への感謝の思いが溢れ、壇上だけでなくホール内外で家族との感動的な再会場面がありました。世間体という強固な意識に支配される風土にあつて、この国では身内が依存症になっても家族は社会に救いや助けを求めることができませんでした。でも、運良く当事者がリハビリ施設に繋がり「回復できる病気」と分かることで、家族は希望を手にできます。回復は茨の道ですが、潮騒家族会の活動を通して共依存から脱した家族は、今度は当事者の回復を支える“魔法の杖”になります。その意味からも今回のフォーラムで、潮騒は家族と共にあることを確認できた意義はとても大きいと言えます。フォーラムという非日常のイベントから日々の地道な活動に戻り、これからも地域と家族との繋がりを深めながら、施設運営に励んでいきます。

(センター長 栗原 豊)

潮騒JTC

多彩な企画で初の満員状態を実現

13周年フォーラム



NPO法人潮騒ジョブトレーニングセンター(JTC)は12月2日、地元の鹿嶋勤労文化会館ホール(鹿嶋市宮中)で、設立13周年を祝うフォーラムを開催しました。今年は「音楽が繋ぐ仲間、未来」「潮騒ミュージックステーション〜歌と踊りで回復の魂を揺さぶろう!」を主テーマに、仲間達の歌やプロ歌手による歌謡ショー、元タレントのマーシー(田代まさし氏)と潮騒の仲間達によるステージパフォーマンスなどで来場者を楽しませ、フォーラム始まって以来の満員状態(定員約750人)となりました。涙と感動の仲間のメッセージや離れて暮らす家族との再会、一条乱れぬ勇壮な沖縄太鼓のエイサー演舞など、音楽との関わりを通じた回復プログラムの成果を披露する、潮騒JTC独自のフォーラムになりました。文字通り「歌と踊りの潮騒フェスティバル」となり、アディクト(依存症者)達による心からのメッセージ、さらにはコミカルなジョークパフォーマンスの、年に一度の潮騒大祭でした。この盛り上げを、今月号では潮騒13周年フォーラムを総特集し、多くの仲間達の感想を通してフォーラムの総括と展望を試みました。(潮)



歌と踊りとコミカルな音楽パフォーマンスで盛り上がる ～支援のプロ歌手の熱唱で会場の感動も最高潮に

フォーラムは午前の部で、潮騒が取り組む音楽による回復プログラムを「潮騒ミュージックケア」として舞台で再現、指導に当たる行方市出身のプロ歌手・川島有紀先生と潮騒の仲間7人が、取り組みの成果を披露しました。川島先生は、穏やかで、柔らかく、品良く仲間達をリードし、歌唱を披露。歌(音楽)が回復にもたらす霊的な力を感じさせました。

続く「仲間のメッセージ」では、トムさん、ブーさん、めいさん、アキラさんが登壇。家族が見守る中でそれぞれの人生を振り返り、依存症に至った自らの体験や潮騒に繋がる(入寮)までの経緯などについて語り、傷つけ迷惑を掛けた両親や子供たちに謝罪と反省の言葉を述べ、これからの夢や目標などを話しました。女性施設の施設長・ルミさんは、昨秋オープンしたシェアハウスについて説明。「就労プログラムで働く女性たちが快適に過ごしている」と報告しました。家族や子供との再会報告もあり、会場は涙と感動に包まれました。また、センター長が学ぶ県立鹿島灘高定時制課程で体育を担当する岡田朋紀教諭(57)と、10年振りに再会したピノコさんの兄がサプライズで登場し、それぞれ温かいメッセージを寄せてくれました。

昼食を挟み、潮騒 JTC の鹿嶋琉球太鼓による華麗なエイサーの演舞で午後の部がスタート。千葉と川崎、相模原の各ダルクから駆けつけたエイサー仲間約30人が友情出演して、次々に演舞を繰り広げました。最後は全員が舞台に上がり、会場を震わせる勇壮な首都圏連合エイ

サーを披露しました。続く「潮騒・特別支援チャリティー歌謡ステージ」では、潮騒音楽プログラム講師の川島有紀さんと鹿嶋市出身の幡千恵子さん、今も歌謡界の第一線で活躍する平浩二さんの3人がゲスト出演し、プロの神髄を示す華やかなステージを繰り広げて来場者を堪能させてくれました。

一方、「ゲストメッセージ」では日本ダルク代表の近藤恒夫さんが登壇。「依存症で一番恐ろしいのは、当事者が孤立させられること。家族や友人を失い、仕事も信用もなくなり、住む場所もなく周囲の支えもなくなってしまう。ユタカさん(栗原センター長)は、そんな多くの人たちを受け入れ、その活動が実っています。ユタカさんは私のできなかった事をやってくれており、ダルクの可能性が更に広がった。(依存症回復だけでなく)人が人として生きていく活動を支えている潮騒の今後の発展を願っています」と温かいメッセージを寄せて頂きました。

プログラム最後の「潮騒・仲間の絆ミュージックステーション」～マーシーとゆかいな仲間たち～では、特別進行役を務める元タレント・マーシー(62)と潮騒の仲間たちがギャグを交えた軽妙なコントと歌を繰り広げ、会場を沸かせました。最後は、出演者と舞台上がった参加者らが、マーシーの歌う「U.S.A.」の替え歌に合わせたダンスで躍動。プロ歌手を招いたチャリティー歌謡ショーと合わせて、潮騒フォーラムに新たなスタイルの可能性と固定観念に囚われない新鮮な息吹を感じさせました。それを支えた巧みな進行役のマーシーの手腕が光りました。

最後に、栗原センター長は感謝の意を表し、依存症者が安心・安全に暮らせる居場所と自立に向けた環境作りを進めている独自の取り組みを強調し、「潮騒は依存症の実情を踏まえながら、医療や福祉、司法、教育などの分野と連携し、地域の中で依存症に対する理解が深まることを願っています」と述べ、フォーラムは成功裏に終了しました。

家族愛と絆を訴える 仲間達のメッセージに深い感動

今回のフォーラムでは仲間達のメッセージが会場に感動を与えました。以下は、トムさんとブーちゃんのメッセージの要旨です。



ブーちゃん

「やっと仲間に恥ずかしい話が出来るようになった」

「自分を曝(さら)け出すことが出来ず、家の都合や事情を自分の問題としてではなく親や友人、環境などのせいにし続けてきた」と、真っ先に自分の弱さを披瀝しました。その上で「小学校5年生でウイスキーの味を覚え、栄養剤ドリンクの小瓶に入れたウイスキーを学校に持って行くようになった」と明かしました。「今の自分が、そんな30年前の10代のころの自分に突っ込んでやりたい」と語り、「1983年、幼なじみの友人と一緒に東京の中学校に通う自分の姿が見えてきた」と12歳になった自分を思い浮かべながら、「あれ、ダメだよおい、また栄養ドリンクに詰めたウイスキーを飲んでるよ」と呆れた様子で話し掛けます。同級生とコピーバンド組んで活動を始めた2年後の自分には、「あれ、バンド活動する児童館まで歩いているな。あーダメダメ。あそこのおでん屋。行っちゃダメ。100円で竹輪麩とワンカップ。アル中だな。お袋泣くぞー」とモノローグで過去の自分を憐れみしました。

自分をどのように表現したらいいのか分からず、注目を浴びたくても酒の力を借りなければ出来なかった苦い過去。高校2年の終わり、母や友人が手を握って「行くな!」と自分を引き止めている情景を語りながら、「行っちゃダメ!」と叫ぶように力を込めました。結局、遅刻厳禁の最後通告を無視して飲んで寝過ごし退学処分。「学校に呼び出されたお袋の悲しそうな顔を今も忘れない」と、やるせない表情がにじみました。歌手になる夢を諦め、面倒を見てくれていた叔父の中華店で仕事

を手伝うようになったが飲酒は止まらず、精神病院の入退院と転職を何度も繰り返します。でも、潮騒に繋がった(入寮した)今は「やっと仲間に恥ずかしい話が出るようになった」と打ち明け、そんな自分を受け入れてくれた仲間に感謝のメッセージを送りました。そしていつの日か「8年間会わずにいる娘が『パパに会いたい。パパってどんな人だろう』と言ってきたときに、素面な自分で会いたいと願っている」と結びました。



トムさん

「52歳になって、
やっと生まれてきてよかった」

開口一番「今日はこの会場に両親が来てくれている」と話し始め、「約10年位前から始まった依存症で精神病院の入退院を繰り返し、都内の中間施設に繋がった」とアルコールに起因する過去を振り返りました。「子供のころから病弱で、小学校の高学年になってから2度の手術を受け、何度も入退院を繰り返した」と少年時代を回顧「その頃から両親への依存が始まり、高校で酒を覚えてからはまっしぐらに依存するようになりました」と打ち明け、大学卒業後に勤めた会社では人間関係に悩み、責任の重圧とストレスで苦しみました。

約10年前の中間施設でのことに触れたトムさんは「仲間が大嫌いで、俺と違う生き方をしてるし、大学も出ている。俺も両親のお陰で大学を卒業させてもらったが、絶対違うと思っていた」「そう思うと苦しくなってしまうんです。仲間の中で正直になれず、裸になれなかった」と告白。施設での約3年弱、頑張ったが何度もスリップ(再飲酒)を繰り返し、「お酒が止まらず、自分ではどうにもならなかった」と吐露しました。「両親も知らないことだと思うが…」として約8年前の自身の逮捕歴に触れ、「無銭飲食で捕まり20日間拘留された。不起訴処分で釈放されたが、生活保護も切れて孤立無援に陥り、初めて潮騒JTCに繋がった」と語りました。

「コンプレックスがあり、ひがみっぽい性格のため、潮騒に来た当初はよく喧嘩をした。その過程で病気だと気付かされ、受け入れてもらえた。お陰でお酒は止まっている」と続け、支えてくれた潮騒の仲間や栗原センター長夫妻、関係者らに感謝の言葉を述べました。最後は「両親のいることが当たり前だったので、今まで感謝することはなかった。52歳になって、やっと生まれてきてよかった。生んでくれてよかったと思えるようになった。感謝しています。ありがとう」と、初めて鹿嶋市を訪れてくれた両親に謝意を表しました。(岩)

仲間が協力し合い一人ひとりが 努力すれば大きな力に

シゲ
感想文



当日の朝、私は駐車場係の任務をこなした後、音楽プログラムステージがあるのでホール内に入りました。7名の仲間が参加して練習の成果を発表、私も6番目に杉本真人さんの「つつがなく」を、お客さんの前でスポットライトを浴びて心を込めて唄わせて頂きました。唄い終わるとたくさんの拍手を頂き、達成感と幸福感を味わうことができました。

ステージが終わるやいなや今度は、別会場でお弁当を配る任務につきました。お弁当は100個、お茶100本です。皆さん美味しそうに笑顔で食べていました。皆さんの食事が終わった後、片付けや掃除などをして午後4時頃に再びホールに入りました。ちょうど平浩二さんの歌謡ショーが行われていました。当時のキーで「バス・ストップ」を熱唱して、とても感動しました。歌謡ショーが終わり、仲間達の余興が始まりました。マーシーさんとラッツ&スターの「め組の人」を唄い踊り、本当に素晴らしいパフォーマンスでした。女性ハウスの仲間達はピンクレディの「UFO」を見事に踊っていました。

最後は栗原センター長の挨拶があり、フォーラムが閉幕となりました。無力な私達ですが、仲間が協力し合い一人ひとりが努力をすれば大きな力となります。「今日一日」をモットーに日々、依存症からの回復を目指して頑張ります。第13回潮騒フォーラムは大成功でした。

タモリを真似てサングラス、 オールバックを試みた

コバ
感想文



当日は午前の部で、私も参加した潮騒ミュージックケア・プログラムの舞台発表があった。講師の川島有紀先生が進行役を務め、うまく私達をリードしてくれた。施設の音楽ケアプログラム講座(カラオケ教室?)の生徒7名の仲間がステージで次々に熱唱し、自慢のノドを披露した。年長の私は、トリを飾る幸運を得た。周囲からの反応は良かったけれど、自分では60点くらいの出来だったと思う。他のみんなもプレッシャーをはねのけ、声が出て素晴らしかった。体ごとで歌うことによって日頃のストレスを解消できるし、歌がうまくなると自信がつき、それが依存症の回復に繋がっている。実を言うと私は当日やや体調を崩しており、痰が出て大変だった。それでも、歌い終わると心地よい疲れを感じた。

午後は進行役のマーシーと掛け合う形で、タモリを真



似てサングラス、オールバックを試みたものの、デキは今ひとつだったかも。潮騒のコバといえば、“お寒い”オヤジギャク(駄洒落)を期待する向きも多いが、ダジャレの帝王・マーシーの前では陰が薄くなるので控えた。意外かもしれないが、私はもともと奥手で引っ込み思案の性格なので、舞台では終始恥ずかしかった。でも、マーシーに助けられながら、最後まで精一杯頑張ることができた。時にはバカになり、めいっぱい楽しむことも必要だなと思った次第。司会よりも大変だった。

「怪我の功名」でエイサー仲間 への気づきを得る

ヒトシ
感想文



話はフォーラムの発表前に遡ります。農作業隊リーダーの自分は9月下旬、作業中に右腕の靱帯を断裂するという、予期せぬ事態に見舞われました。潮騒エイサー太鼓が一番忙しい時期と重なり、メンバーには多大な迷惑を掛け、家族や農作業メンバーにも負担を強いる結果となりました。大好きな太鼓が持てない現状に、自分自身がとても情けなく、落ち込む日々が続きました。でも、毎週やってくるエイサー発表会の演出や細かな打ち合わせには顔を出し、不自由な体を引きずってメンバーと何とかこなしながら、腕が治るまでは白塗り道化顔の“チョンダラー役”で立ち回りました。

そんな折り、去年からいる新メンバーの次郎は太鼓の覚えが悪く、気持ちが続かない状態でした。彼は「今年のフォーラムでミルクムナリを叩く!」と豪語していたものの、フォーラムまで2ヶ月を切ってもまだ一人で叩ける状態ではなく、どうしたものかと太鼓会議が持たれました。その時の会話一。私「やるのか? やらないのか?」、次郎「フォーラムに出たら決めたいと思います」、私「そうじゃないだろう。俺も腕の状況から打てるか分からないけど、俺は出たいから一生懸命リハビリしている。ダメだったら諦めるが、最大限の努力は惜しまない」と自分を引き合いに、次郎を責め立てました。

その後、練習していくうちに私の腕の状態は少しずつ良くなり、フォーラム前には何とか打てるようになったものの、以前の5割程度の力でしか打てません。しかし、そこで気づきが生まれたのです。「そうだ、完璧な姿の俺を見せる必要はない。ありのままの姿の演舞でいいんだ!」と。すると、頑張っている次郎の姿もごく自然に受け入れられるようになったのです。一人前とはいかないけれど、みんながいれば出来るし、何よりも失敗こそが次郎の成長に繋がる。そんな風に努力し続けていくことが大事なんだ、と気づいたのです。今回のフォーラムを踏み台に潮騒エイサー隊は、まず自分達が最大限楽しみ、そしてより技術が向上していけるよう頑張っていきます。

歌手の皆さんのプロ意識には 学ぶべき点が多かった

タチ
感想文



午前と午後では色合いがだいぶ違ったフォーラムだったと思う。午前は来賓挨拶があつてお堅いフォーラムの感じ、午後は歌と踊りのパフォーマンスが舞台を盛り上げ、和やかな雰囲気だった。印象に残ったのはメイさんとアキラさんのメッセージで、家族愛の素晴らしさを再確認できた。最前列に座っていた方が涙しているのを見て、司会を務めた私も一瞬うろたえた。改めて家族の絆の強さを思い知り、仲間と同じく当事者の回復を下支えする大事な存在だと分かった。当事者の生の声が聞けることがフォーラムの醍醐味だとしたら、それをうまく体現できたと思う。

私が過去に経験した社会福祉施設のフォーラムは、専門家の講演やシンポジウムなど、よくあるパターンだった。当事者よりも職員が前面に出てしまい、真面目な企画ばかりで「遊び」の要素が少なく、退屈しがちだった。その点、潮騒フォーラムは仲間が主役だけれど、会場の参加者へのもてなしも忘れず、エイサーの場面では会場全体で盛り上がったのが、とても良かった。

午後は司会をマーシーさんにバトンタッチし、私も女装して舞台パフォーマンスに加わり、仲間と共に目いっぱい弾けた。「小学生が演じる学芸会みたい」との見方もあるかもしれないが、私達は芸能のプロを目指している訳ではないので、忙しい日常業務の中で時間をやり繰りして練習した成果が、なんとか会場に伝わったかなと思う。今回、平浩二さんらプロ歌手が「これがプロだ!」という熱いステージを展開し、鍛え抜かれた技量の凄さを感じた。ステージのソデで待機して、いざ本番となるとスイッチが入り、舞台に出た瞬間に華やかなオーラを放つ。お

客を飽きさせないエンターテインメントの世界を演出する姿勢に脱帽した。私達も社会復帰して仕事に向かう時には、本番モードに気持ちを切り替えなければならないが、私達アディクトはこのセルフコントロールがうまくできない。歌手の皆さんのプロ意識には学ぶべき点が多かった。

自分が楽しんでやれば 見る側も楽しく感じられる



エビ
感想文



今年のフォーラムは観客がたくさん来てくれて、大成功だったと思う。個人的にはミスが多くて、もっと気づかなければならないことがいっぱいあった。私は昼食の配布係をしたが、大勢の人が来て部屋がいっぱいになりました。マナーの良い人が多く、「ありがとう」と弁当を受け取ってニコニコしていました。私の気づかないことを助言してくれてありがたかったし、おかげで弁当配布はスムーズにいった。

当日は、私も加わる余興の時間が近づくに連れて緊張感が高まった。プロ歌手による歌謡ショーが盛り上がっていたので、余計に緊張した。考えすぎて「よし、これで行こう!」とはならなかった。舞台の袖から出始めた時、観客が静かだった。たった数分なのにずいぶん長く感じ、「マーシー、早くまとめてくれー」という気持ちだった。自分にできることをすればいいのに、もっとそれ以上できる訳がないのに、考え過ぎてしまったのがいけなかった。私があれこれ考えたってろくなことはない。どうでもいいことを考えて飲んでしまうくらいである。

良いこともあった。最後に観客を見送るとき、あるご婦人が私のところに来て握手を求めてきた。そして「楽しそうに踊っているのが良かったわ」と微笑みながら言ってくれた。涙々、私は「UFO」だけは音楽が掛かると何も考えずに体が動くので、とても楽しい。今回気づいたことは、自分自身が本当に楽しんでやれば、見る側も楽しく感じられること。自分の頭で考えても答えは出ないので、これからは感じるままに生きていこうと思う。



「るみの家」女性アディクト達が 本音のメッセージ

今回のフォーラムでは登壇した女性陣のメッセージが、ひととき会場の感動を呼び起こしました。一般に女性アディクトはなかなか「底つき」できず、回復が難しいとされます。複数の薬物依存と摂食障害、窃盗症など特有の症状を伴い、妊娠、出産、DV、離婚、シングルマザーなどの問題も絡んで、当事者の回復と共に家族との関係修復が課題となります。それだけに女性の仲間達の本音のメッセージが参加者の心に響きました。



バカなことも必死でやると 笑い感動が伝わる



私は潮騒フォーラム 4 度目の参加でした。前日のリハーサルからすでに始まっていて、今まで関わっていなかった部分のお手伝い等も含め、皆フォーラム一色でした。今年のテーマはミュージックステーション。私は余興とダンスに加え、メッセージを運ぶ大役まで与えられ、少し緊張していました。当日は朝からかまどでお弁当作りから始まり、いざ会場へ。午前の部の終わりにステージでメッセージに立ちました。声が震え、前を見る余裕もなく、顔もこわばっていました。親に対して恨みを持っていたことを両親に言葉で伝えたことは初めてで、涙がこぼれました。なんとか私の今の素直な気持ちを伝えることができました。今は感謝しかないからこそ、伝えられたんだと思います。

午後は戦争でした。大慌てで着替え、エイサー隊として一年の練習成果をしっかりと舞えました。今年の見所でもあったルミさんの歌、衣装も一体感と迫力を増し素晴らしかったです。この達成感があるから苦しい練習も乗り越えられるんだ、と改めて感じました。余興では一生懸命ふざけました。バカなことも必死でやると会場に笑い感動を与えることも今回、思い知りました。

回復途上の私が、こんなにも楽しめて笑える日が来るなどと思っていませんでした。こんな私でも皆に感動を与えられることを幸せに思います。そして、足を運んでくれた両親に心から感謝しています。ありがとうございました。

壇上に上がった息子には 成長していた顔があった



フォーラム当日、私は壇上からメッセージを運ぶため、仲間達より先に会場に着きました。メッセージのメンバーに選ばれたのは、フォーラムの1ヶ月前で、そこから練習を重ね、寝る前などもいつも紙を広げ、読んでいました。そして本番、私はメッセージの最後でした。緊張していましたが、ミーティングよりも話しができ、施設長から「息子を壇上に乗せるよ」と言われ、びっくりしました。メッセージでも話しましたが、私は子どもを産み、3ヶ月しか育てていませんでした。

それが今年9月、施設長達と一緒に17年ぶりに息子に再会できたのです。私にとっての奇跡でした。感動のあまり言葉を失いました。そんなプログラムを潮騒は今、私に与えてくれています。そして今度は、息子がフォーラムに来てくれました。壇上に上がった息子を見たら、成長していた息子の顔があり、目には涙を浮かべていました。ただ、長い空白期間から私は息子に謝ることができませんでした。でも、今は埋め合わせのプログラムも始まり、子どもと一緒にできることを、これから時間を掛けてゆっくりと共にしていきたいと思います。メッセージもたくさんの人達に分かっていただきたいし、また仲間達、そしてこの施設(るみの家)、そして施設長のお陰でメッセージを終え、ここに居ることができています。

私は午後のエイサー、ダンスにも参加しました。メッセージの後すぐエイサーなので、急いで着替え舞台上がりました。私はフォーラムが2回目で、去年はパーラंकで踊らせてもらい、今回は中太鼓になり、千葉、川崎、相模原応援ダルクさんが来ていました。私は「ミクルムナリ」と「ねんじゅ」の2回しか出ていませんでしたが、それも合同でやらせていただきました。いつもは失敗する私が失敗もせず、精一杯力をふりしぼって踊りました。達成感と感動。本当に楽しかったです。その後、余興を始める前に私達は「バンクレディー」のため、顔に化粧をし、ユーホー、USA、めぐみを踊りました。ユーホーで踊りを間違えた私、前を向くと息子が目に入

り、少し照れました。でも、一生懸命に踊り、とっても楽しかったです。去年とはまた違い、いい経験をしました。仲間たちにありがとう、そして自分にとっての良いプログラムとさせていただきました。また来年、楽しく参加させていただきます。自分にとってよい経験、勇気がもてた一日でした。「るみの家」に繋がって良かったです。ありがとうございます。

年々フォーラムは変化し 味わいがあるものに

くま
感想文



前日、会場の準備に行ったときから私の中ではフォーラムの雰囲気は漂っていました。当日のお弁当作りの手伝いをして、フォーラム会場へ移動した私は女性の手作り手芸品を販売する担当だったので、仲間のメッセージを聞くことが出来なくて残念な思いでした。少しして母が来てくれて、その姿を目にした時の私は、嬉しさと同時に大きな安心感に包まれました。その後、私は昼食をとる暇もなかったのですが、エイサー衣装を身につけたとたん、自然と心が引き締まって、気合いが入りました。

舞台でライトを浴びて踊ることに、なんとも言えぬ心地よさが感じられる私です。演舞が始まると、解き放たれた気持ちになって、心が華やぎました。応援ダルクの方々と多人数で、エイサーの舞台に立つことで、またひと味違った元気ももらえました。その後の余興で弾けられたことも良かったです。年々フォーラムは内容が変化していて、味わいがあるものになっている気がします。毎年見ている人にもそのことが伝わっているようで、母も「フォーラムの内容が変わってきていいね…」と言っていました。

私自身エイサーをやっているからこそ、フォーラムへの関わりもより深いものとなっています。自分の中に入ってきたし、様々な場面で感じ得るものが多くあることを自覚しています。自分が前向きな気持ちを持って仲



間や家族に向き合えるのも、そういった場面が持てること、そして、その中でたくさんのことが感じられていることを大変ありがたく思いました。

今回のフォーラムでは母ともゆっくり話ができる時間を持たせてもらえ、私にとってももの凄く有意義な、貴重な日となりました。小さな蕾が一気に花開いたような幸せを感じられる時間を過ごすことができ、良かったです。

涙あり笑いありで家族の 素晴らしさも実感できた

ピノコ
感想文



潮騒 13 周年フォーラムで私はエイサーの演舞、午後からの司会マーシー氏とのコラボによる潮騒ミュージックステーションで踊りました。私は 2 回目の参加なのですが、プログラムの構成や会場の配置など今年は一連の流れを勉強させて頂き、準備や裏方の大変さも知り、1 年の集大成のフォーラムは本当に凄いなと思いました。

エイサーではリーダー筆頭に選曲ルミさんが歌う新しいもの、先行く仲間の覚える早さに圧倒されながらも 2 曲は旗持ちをさせて頂き、歌や掛け声を頑張りました。応援ダルクさんと一緒に 3 曲をやり、今年は中太鼓を叩いての演舞(まだ私の完成度は低いのですが…)ができ、子供の頃からの太鼓を叩きたいという夢が叶いました。余興では仲間達がアドリブを入れたり、面白い格好をして、女性ハウスの仲間や家族に見てもらえたことで、後から「凄かったね。面白かったよ」と言ってもらえたので、大変だった練習の成果が実り達成感をとて味わえました。最後の USA やピンクレディーは、女性ハウスの仲間もステージに上がってきてくれて嬉しかったです。

仲間のメッセージは緊張したと思うけれど、内容の素晴らしさに私も感涙し、兄が「家族側からという観点で話そうか?」と何気ない一言でサプライズで登壇し話してくれたこと、何を話すかわからず兄の隣で緊張していました。後から兄は「終わりの方の締め方は大丈夫だったかな?」と話していましたが、私が昨年メッセージを運んだ時に少ししか話せなかったことへのフォローをしてくれたんだな、と感じました。仲間と家族が出会えて、その光景を見て微笑ましかったこと。潮騒ジョブのフォーラムは涙あり笑いありで、仲間も含め家族の素晴らしさを実感させてくれました。他のダルクフォーラムは分かりませんが、潮騒が一番のフォーラムだと思う

し、最高のフォーラムになり、大成功だったと思います。
最高の一日を過ごすことができ、これからも薬物依存症の回復をし続けたい私です。

あっちゃん 潮騒 ジョブトレーニングセンター 13 周年フォーラムに田代まさしさんの実物を見て、かっこよくて、いい男で、優しくて感動をしました。エイサー、歌謡ステージ、ミュージックケアなどいろいろとても楽しかったです。また、来年も見に行きたいです。

いるか 毎年フォーラムに行っていますが、今年のフォーラムはとても楽しみでした。エイサー隊が毎日のように練習をしている姿を見ていただけたに、とても心に残る演舞でした。そして今でも太鼓の響きが私の中に残っています。みんな達成感があつたんじゃないかと思えます。それと、仲間2人が貴重なメッセージをしたのに、任務があつて聞けませんでした。楽しみにしていたので残念です。仲間の子どもさんが来てくれていたり、ご両親が来てくれていたりで、とても感動したと思います。話を聞いただけで涙が出てきてとまりませんでした。今年のフォーラムは今までとまた違った形で、とても感動的なフォーラムでした。

かよこ フォーラム会場ではマーシーが楽しくて、舞台に釘付けになりました。それに昔は有名なモデルさん(ゲストのトムさん?)だった方も歌ってくれて、薬物っておっかないと、元芸能人の二人の存在を通して教えられ勉強になりました。エイサーの方がやっているところを見て、凄い、もの凄く練習したんだなって思いました。真剣に見れるところと、楽しいところがあつて嬉しかったです。ステージで男女が踊ってた時、女の方がどうしても子どもに見えてびっくり!そしてルミさんが出てお話し?施設長さんの今までの凄さが分かった。

ナン 私はフォーラムに参加できず、かまどのお店で朝からお弁当を作り、それが終わるとオードブルを作りました。いつも通りにお仕事です。今回はホールの方でした。大変疲れましたが、皆さん「おいしかった」と言って下さったので、嬉しかったです。無事に終わって良かったですが、エイサーの踊りや仲間のメッセージが聞けなくて、とても残念です。それでも少し時間があつたので、写真だけ見に行かせて頂きました。見たかったです。とても残念です。

しの 潮騒 13 周年フォーラム、すごく楽しかった。他のダルクのエイサーも凄く良かったです。素晴らしいです。「海の声」がよかった。田代まさしも凄く良かったです。凄く太りましたね。また来年も見たいです。

しま 正直、女性メンバーの中で一番潮騒フォーラムに参加していると思われる私。今回のフォーラムは「かまどの皆様、本当にお疲れ様!」という感じです。朝からのお弁当作りは去年までの物と比べて少し楽でした。もちろん量は増えましたが、女性ハウスやエイサー隊の仲間がとても手際よく次々と具材を詰め合わせ、思いのほか手早く完成させることができました。それもこれも、早朝から材料を何百食と作り上げて下さったかまど料理担当の方々の実力のたまものです。私達は手伝いのようなものでも「やった、終わった!」との達成感、充実感を持ってました。それもミカさんはじめスタッフのおかげです。疲れたし、エイサー演舞を観られなかったのは残念ですが、フォーラムの大切な一部を担っているという(ちょっと大げさですが)誇りを持って、毎年かまどメンバーであることを感謝しています。

のん フォーラムは初めてでした。私は今、就労支援のプログラムで“かまど”で働いています。当日もかまどで、お弁当作りから始めて夜9時頃帰宅しました。途中、フォーラム会場へ連れて行ってもらい、写真やいろいろな見ました。来年も今から楽しみにしています。

チャコ マーシーの司会という事で楽しみにしていました。マーシーを食い入るように見ていました。エイサーが始まると、ドキドキワクワク、胸がジーン、キュンと熱くなり、感動しました。エイサーは私にとって元気の源です。当日は一日楽しく、心穏やかに過ごせました。これからもよろしくお願いします。皆さんお疲れ様でした。ありがとうございました。

ミニー フォーラムには終日参加しました。午前のメッセージは格好良く、午後は色々なダルクの方々のエイサーも見れましたが、やっぱりジョブのエイサーが良かったです。ルミさんが面白かった!私も舞台に出て踊りました(笑)。余興では、出し物の DA・PUMP の「USA」やピンクレディーの「UFO」も仮装をして面白かったです。私は家族も来てくれて一緒に楽しく見ることができました。マーシーの司会も良かったです。また来年も楽しみにしています。

受刑者 からの手紙

受刑者の中には「仮釈狙い」で潮騒につながる方がいますが、多くが保護観察期間が切れば出ていきます。回復のルートに乗れるならそれもOKですが、むしろ何ら下支えのない状況の満期出所の方が、孤立化が避けられないだけに問題だと考えます。

私のいる工場の者がカラオケ大会で最優秀賞を頂く

落ち葉が地面を美しくおおうこの頃、お元気でいらっしゃいますか。当地は急激に寒くなって参りましたが、今のところなんとか元気にしております。

平成三十年も残り僅かとなりましたが、当刑務所では先頃カラオケ大会が行われまして、私のいる工場の者が最優秀賞を頂きました。なので、工場内はいつもと空気が違い、皆明るく、喜びに満ちあふれております。私は予選で負けてしまいましたが、何か一安心しております。次の予定は、やはり工場対抗となりますが、オセロ大会がそろそろ始まります。これもかなり期待できるメンバーがそろっております。

ここは舎房に関しては新しいので過ごしやすさがありますが、運動場がありませんので、不自由しているところもあります。まあ予算の関係上、仕方がないと諦めております。潮騒さんも年末や年明けなどかなり忙しくなっていくと思っておりますが、無理をしないように気をつけて下さい。

最後となりますが、私の本音としては残刑期も六ヶ月となりますので、遅くとも年内中には潮騒さんに行けるかと思っておりましたが、そんなに簡単に物事が進まないの、大変に厳しく感じております。年明けになりますと仮釈もなくなってしまうので、一日でも早く行ければいいかと思う気持ちでいっぱいです。今回は、この辺で失礼致します。

(神奈川県、O・Y)

運動時間には少しずつジョギングをしたりしている

秋とはとても短く、冬がまるでかけ足でやってくるようですが、栗原センター長、そしてシゲさん、その後如何お過ごしのことでしょうか。お陰様にて私は毎日、元気で受刑生活を送っておりますので、ご安心下さい。この所、回復の方がだいぶ順調に進みまして、運動時間には少しずつジョギングをしたり、言葉の方もいつの間にか普通に話ができている、とふと気がつくことがあります。本当にうれしく、充実した日々を送っております。

これも全て私の周りで応援して下さいます方がいるお陰です。センターからのハガキに書かれております言葉に勇気をもらい、シゲさんから毎月送られてきます便りにどれだけ励まされておりますことか計り知れません。いつも本当にありがとうございます。感謝の気持ちでいっぱいです。

もうすぐフォーラムが開催ですが…毎年、色々な取り組みにて行われますフォーラムではありますが、今年のフォーラムは一段と素晴らしいものになるものと思います。早く潮騒通信にて拝見出来ますことが、今から楽しみにしておりますので、どうか頑張ってください。後もう少しですので、しっかりとつとめ上げて参ります。

(長崎県、O・K)

自分自身の力では依存症を克服することができない

知人の紹介で潮騒ジョブトレーニングセンターを知り、お手紙を差し上げます。私はT・K(43)と言います。覚醒剤の依存症により、いまだに覚醒剤を止めることが出来ず、1度目は執行猶予で、2度目は1年6ヶ月の実刑判決でした。今回3度目の逮捕となつてしまい、今、拘置所にいます。今までは自分自身の力で覚醒剤を簡単に止めることができるの甘い考えでしたが、結局は止めることができず、今回の逮捕となっております。自分自身の力では依存症を克服することが出来ず、今回ダルク関連施設である潮騒さんの力を借りて、治したいと思ひます。私としては出所後、お世話になりたいと思ひますので、どうかご指導をお願い致します。(東京都 T・K)

しおさい俳壇

12 月のお題 冬の山

選者 桐本石見

人生は 60 歳からでもやり直せる！ No.59 センター長 栗原 豊

12 ステップの基本を入り口にハイパーパワーを信じ始める

鹿島ダルクでの生活に抵抗感が薄れていくのに従い、不思議なことに私のなかでミーティングで苦手意識が強かった 12 ステップ・プログラムを本気で学びたいという気持ちが生まれていた。午前にも組まれたステップミーティングにも積極的に関わるようになり、特に「自分がアディクト(依存症)であり、アディクションに対して無力であることを認め」(ステップ 1)、「自分の力だけでは使わないこと(回復)ができないこと知り、私たち自身より上の必要性を感じ、信じ」(ステップ 2)、「行動をもって新しい生き方を始め、実践して任せる」(ステップ 3)—という、仲間が口を酸っぱくして繰り返す“認め、信じ、お任せ”の基本ステップ 1、2、3 を、私は半ば意識して集中的に行うようになった。

すると、劇的ではないものの明らかに自分自身が少しずつ変化していくのが分かった。あれから 15 年近く経ったが、今もってあの時の内面変化の様子を、説得力ある言葉に託すのは難しい。とにかく基本ステップ 1、2、3 を繰り返すうちに、私の心の奥深くに沈殿していた不純物のようなものが気泡のように浮き上がり、外に吐き出される感じだった。しかし、それらは決して唾棄すべきものではなく、任侠道に命を捧げた過去の生き様を映し出す鏡のようなものに思えた。私が本当に守るべきものは、強い敵愾心を持って相手に対して身構えたり、常に重い鎧兜を身に付けて相手を威嚇したりする、暴力を第一義とするパワーゲームに酔いしれた過去の生き方ではない。パワーゲームの幻想から下り、そうしてすっかり身軽になって、覚醒剤やアルコールに頼らない新しい生き方を希求すること。つまり身構えを崩した“今日一日”の精神であることが次第に分かってきたのだった。

それらを先行く仲間達から、あるいは 12 ステップを通して教えられた。私は日々のミーティングにおける仲間の前で、すっかり過去を吐き出し、なぜ生きづらくなったのかを話し、これからどう生きるのか？ という命題を自分に与え始めていた。自分自身が一番変わったと思えたのは、ステップの神髄でもある「ハイパーパワー=higher power」を次第に信じられるようになり、これに自分の心と命を預けていこうと考えられるようになってきたことだった。「何だ、これはやつぱり宗教じゃないか、俺はキリストは嫌いだ！俺が信じられるのは義理と人情の任侠道だけだ！」。訳も分からずに、そうそうぶいていた私だから、何よりも自分の変化に一番驚いていた。(次号に続く)

佳作

木も鳥もじっと耐えたる冬の山	くま	白鳥の何処へ旅の筑波山	こば
山々の紅葉の了る小道かな	チャコ	古里を遠く思ふや冬景色	アオ
遠見にも甲斐の山々雪化粧	ピノコ	元旦や心新たに富士を向く	オノ
冬山に出会いのありて結ばれむ	なん	冬山の暮て信濃の星の空	ヒロ
初めての富士への登山雪景色	メーテル	みどりさん登ってみよう冬の山	なん
登山部の冬の登山にすぐ退部	ミニー	山頂の雪の冠りや単独行	くそじ
寒晴や峰々陰しい甲斐の国	マコ	魯田に若者言葉通りけり	ゆたか

※魯田(ひつじた)＝稲刈りを終えたあとの切り株に、
また新しい茎が一面に生じた田

特選句

富士山へ
込めいる願ひ
年の暮

くみ

富士山は日本の最高峰で姿も美しく世界遺産にも登録された。「田子の浦ゆうち出でて見れば真白にそ富士の高嶺に雪の降りける」(山部赤人)など歌にも詠まれ国の象徴でもあります。その雪を着た富士山へ来年の幸を願う、日本人故の慎ましい句です。

特選句

雪山へ
シュプール描く
君のいて

ヒロ

スキーは中国で紀元前八千年頃からあると言われ、日本へは明治の四十四年頃、オーストリアから今の上越市に軍用として伝わったと言う。今では雪国の人や若者の冬のスポーツで、ファッションと共に人気がある。ゲレンデに二人の描くシュプールも快い句です。

特選句

冬山の
是より先や
南部領

あべ

南部領は岩手県中部、青森県東部を言い、盛岡藩とも言う。源頼朝の奥州征伐に甲斐源氏の南部光行が功得て、この地に土着し十萬石の藩祖となった。以後幾多の苦難を越えて明治まで続いた。句の作者の故郷も南部なのか、冬山に里を懐かしむ。また鉄瓶や風鈴も名高く、遠野市の語りも懐かしい。

秀逸句

今月の秀逸句

冬山の
越ゆる峠や我が故郷

みく

日本は山国なので多くの峠がある。この峠は何処だろうか、また峠は昔の国境でもあり、頂上に立つと故郷が見えて懐かし、帰省した想いに浸る。野麦峠などは女工の悲史を思い、馬籠峠には歴史を思う句です。私にも「赤名越ゆこれより故郷藤袴」があり懐かしい。

きらきらと
霧氷舞ひ立つ蔵王山

めい

蔵王山は宮城山形県南部の連山の総称でスキー場、御釜、樹氷など名高い。樹氷は木に雪が付着し人の形に見えたりする。霧氷は霧が枝などに付着凍結したもののだが、付着前晴天に舞うのも美しい句です。

冬山の
温泉三昧草津かな

オノ

草津温泉は日本三名湯の一つで、日本武尊、源頼朝などが開いたとも言われるが、定かではない。また湯が臭いので、臭水が草津の名になったとも。湯畑や湯屋巡り、湯もみショーなど名高い。山の雪など眺めての湯治も良い。

凜として
巖の峙つ冬の山

れいこ

山には木の茂るのや岩山があり、また高山、低山がありますが、冬になり枯草もなくそそり立つ岩山は近寄り難い威厳があります。私の故郷石見は名の如く岩肌に見える山が多く、余り高くなくても冬はごつごつした威を見せます。

風雪や
第二キャンプに籠城す

くそじじ

これは何処の山か、キャンプをするは何千メートルの山と思える。冬山登山は何かと危険が多いが、吹雪などには晴れるのを待つしかない。籠城も面白い表現だし、また八甲田山の映画も思い出す句です。

丸き背な
尖りし背なや冬の山

ゆたか

臥遊録に、冬山惨淡として眠る如し、とあり日本は四季に山の趣がありますが、冬山は眠る様でもあります。また山も同じ形は少なく、夫々に異なる。それらの山を少し遠くから眺めると、丸や尖りもあつて人の背の様でもあり、俳諧の句です。

※臥遊録(がゆうろく)中国・北宋時代の山水画家、郭熙(かくき)の画論

どっこい

私も生きてます～我が回復記～ 「アル中のシゲ」の巻

第6回

飲むと必ず暴力的クレーマーに変身する私の重複障害

アルコールへの欲求が限界を迎えていた私は、運転手に適当なコンビニに寄せてもらいビール三本と焼酎二本を購入し、タクシーの中で飲み始めました。その時のことは今でもはっきり覚えていて、「出所祝いの酒は最高にうまい」とくだを巻きながら運転手に絡み、一人上機嫌になっていました。ほどなく私の行きつけの飲み屋に着くと運転手はホッとした様子で、料金を清算し足早に立ち去りました。いつものように店では顔見知りの常連客が快く私を迎え入れてくれました。

既にコンビニで買った酒は車中であらかた飲んでしまったので、新たにビールを頼みました。顔馴染みの常連客と馬鹿話をしながら、とりあえずビールで乾杯!。「これがないと生きてはいけない」が私の口癖となり、この瞬間が至福の時でした。酒を飲んでいる時だけ生きている時間を過ごしている。その他は死んでいるも同然。「ほらみる、あんなにひどいことした後だって酒さえ飲めば笑い話になるし、孤独でもなくなる。酒が飲めないやつなんて馬鹿者だ…」。本気でそう思っていました。

でも、ここで終わらないのが私の飲み方です。酒が進むにつれて精神が狂いだし、負の感情がマグマのように噴き上がります。すると例によって、「おい! なんだ、このつまみは! 不味くて食べたもんじゃないぞ!」「酒が薄い! 変な味がする。混ぜ物してるだろ!」「この店は客に犬の餌を出して金とるのか!…」など難癖とクレームの嵐となり、ひどい絡み酒になってしまうのです。店主も他の客もいい顔はしません。当然、渋面になります。それを見てはこっちも気に食わなくなり、殴りあいのケンカになります。これが私の最大の弱点。アルコールが引き金になっての感情コントロール障害なのです。この障害は、気が弱く臆病で、自己中心主義者に多く、私も酒を飲むと必ず暴力的クレーマーに変身してしまいます。こんな悪魔のような生き方をしていた私が今後どうなるか、それについては次回に…。(次号に続く)

12月のバースデー

エン



もう年取りたくない。

スミオ



長生きしてね!

J



ありがとうございます。頑張ります。

オトー



I Love YOU!

ヨウイチ



運転 命

カート

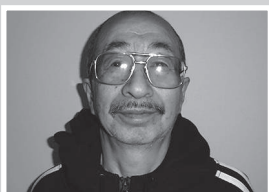


聖なる日に生まれし

マエダ

おかげさまで
長生きできました。

タダエ



僕なりに生きたい!

クニマツ



感謝

ヒコ



大収穫



12月の行事

- 12月2日 潮騒13周年フォーラム
 12月9日 近藤恒夫さんクリーンバースデー
 12月9・15日 秋元病院メッセージ
 12月13日 潮騒俳句会
 12月25日 潮騒クリスマス会
 12月28日 潮騒年末餅つき大会
 12月29日 デイケア大掃除
 12月30日 各ナイト大掃除
 12月31日 大晦日 年越しそば

1月の行事予定

- 1月1日 元旦・おせち料理の会食
 1月2日 初顔合わせ デイケア
 1月3日 NAビジネス
 1月4日 潮騒初詣(鹿島神宮)
 1月5日 NAクリーンバースデー
 1月10日 潮騒俳句会
 1月13・19日 秋元病院メッセージ
 1月27日 潮騒家族会

献金・献品を頂いた方(12月15日現在)

・土屋 幸枝 様

潮騒13周年フォーラムでは、多くの方から献金が寄せられました。スペースの関係でお名前の掲載は割愛させていただきます。潮騒エイサー隊への特別献金は計10万6千円が寄せられました。皆様の善意に感謝します。これにより念願だったチームのパーカーが製作できます。出来上がり次第、本ニュースレターでご報告させていただきます。ありがとうございました。

編集後記という名の独り言

僕は筑波山麓のまちで、妻が急逝してからダウン症の息子(26歳)と二人暮らしをしている。息子は重度の知的障害があり、2歳児ほどの知能しかない。一般にダウン症者は自分だけの世界で完結するルールみたいなものを持っており、息子もこれに対するこだわりが強い▼息子の決まり事に沿って暮らしが営まれていればトラブルは少ないが、当然ながら日々の生活では変化への対応が求められる。こうした場面では息子は突然パニックに陥り、自傷行為(頭やあごを拳で思い切り叩く!)に走るので厄介だ。時間がたてば収まるが、家の中ならともかく外出先でこれをやられると周囲は奇異の目を向け、過去には虐待と疑われて酷く参ったことがあった▼しかし、マイナス面ばかりではない。息子は言葉を持たないから、長く「書くこと」を商売にしてきた僕には身近な批判者となる。時には「言葉なんか人間にとって部分でしかないんだよ」と、存在そのもので教えてくれる。いくら外で偉そうな言葉を吐いても、家に帰れば肝心な息子一人の心をとらえ切れていない自分の非力を思い知らされる▼閑話休題。皆さんから評価を頂いた「潮騒13周年フォーラム」では、僕の関心領域である言葉の世界で二つの収穫を得ることができた。今回、新たな試みとして「歌や踊りを通して回復の魂を呼び起こそう!」を主テーマにしたが、仲間や応援のプロ歌手による歌唱や踊りは、文字通り言葉を超える素晴らしい感動を与えてくれた▼同時に入寮者のメッセージでは、家族愛とその絆の強さが回復を支えることを、言葉を通して訴えかけた。言葉の限界とその可能性という二つの命題。僕には手強すぎるとしても、期せずして誕生したダウン症の息子と、環境は違うが潮騒という異色の空間に出合えたことにより、豊かな体験をさせてもらっている。そのことに感謝して僕の好きな詩を紹介したい▼「言葉なんかおぼえるんじゃなかった／言葉のない世界／意味が意味にならない世界に生きてたら／どんなによかったか／あなたが美しい言葉に復讐されても／そいつは ぼくとは無関係だ／きみが静かな意味に血を流したところで／そいつも無関係だ／あなたのやさしい眼のなかにある涙／きみの沈黙の舌からおちてくる痛苦／ぼくたちの世界にもし言葉がなかったら／ぼくはただそれを眺めて立ち去るだろう／…(以下、略)」(田村隆一『言葉のない世界』より)(市)

潮騒通信 どっこい生きてます! 2018年12月

Contents

- P② 地域と家族の繋がりを体現できた13周年フォーラム
 P③ 潮騒JTC13周年フォーラム
 潮騒フォーラム初の満員状態が実現
 P④ 歌と踊りとコミカルな音楽パフォーマンスで盛り上がる
 P⑤ 家族愛と絆を訴える仲間達のメッセージに深い感動
 P⑥⑦ 男性の仲間の感想文
 P⑧⑨⑩ 「るみの家」女性の仲間の感想文
 P⑪ 受刑者からの手紙
 P⑫ しおさい俳壇 12月のお題「冬の山」
 P⑭ どっこい私も生きてます「アル中のシゲ回復記」／12月のバースデー
 P⑮ 行事予定／編集後記／献金・献品／目次

■編集・発行:

特定非営利活動法人
 潮騒ジョブトレーニングセンター(本部)
 〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱34号
 〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台210-10
 TEL:0299-77-9099 FAX:0299-77-9091
 潮騒アディクションビレッジ会館
 (潮騒アディクション・ケアセンター)
 〒314-0031 茨城県鹿嶋市宮中4-4-5
 TEL:0299-95-9991 FAX:0299-95-9992
 Eメール k.s-darc@orange.plala.or.jp
 ホームページ http://shiosaidarc.com/



